

### ③創業・起業、新事業開拓、成長支援

## 「～街なか野菜工場～ ひまわり ふれあい農園」の 運営

(ひまわり信用金庫)

#### 【概要】

地域の活性化・復興にかかる新たな支援策として、LEDを活用した野菜の水耕栽培の運営を開始し、見学者の受入れ等を行っているほか、外部機関等と連携しながら、栽培品種の拡大、収穫量の増大、品質の向上、及びコスト削減等の（共同）研究を実施。

#### 背景と経緯

ひまわり信用金庫の営業エリアである福島県浜通り南部では、事業者数の漸減傾向により空き工場・空き店舗の増加すると共に、また東日本大震災後に発生した東京電力福島第一原子力発電所事故と、それに伴う風評被害による主力産業の観光業や農林漁業への影響が深刻である。

そのため、地域の活性化・復興のための新たな支援策として、①起業・創業及び企業の経営多角化（空き工場・空き店舗等の遊休資産の有効活用）の後押し、並びに②地域の第一次産業の振興と風評被害の払拭、③地域の雇用の拡大などを図るため、取引先等企業の事業化に向けて、平成26年6月27日にLED活用の水耕栽培プラントのモデルハウス（起業・創業支援にかかる提案型施設）である「～街なか野菜工場～ ひまわり ふれあい農園」を開園した。

#### 具体的な取組

同園の運営にあたっては、多方面から見学者を受け入れると共に、作付けの実習等も行っている。また、水耕栽培の品質向上と品種拡大を図ることを目的として、平成26年7月14日から福島県立磐城農業高等学校との共同研究を開始し、更に平成27年7月1日から（公社）いわき産学官ネットワーク協会の産学官連携・技術開発支援事業として、国立福島工業高等専門学校が実施主体となり、高品質野菜の栽培技術開発及び栽培コスト削減等へ向けて共同研究を実施している。

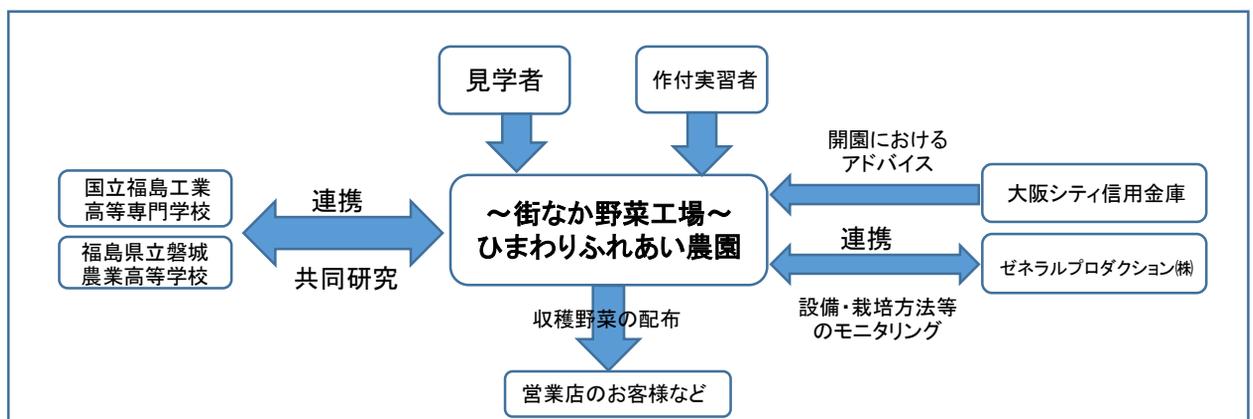


図1. LED活用の水耕栽培プラントのモデルハウスの取組み

収穫した野菜は、当金庫各店の来店顧客等へ配布し、水耕栽培作物の安全性をPRするとともに、卸価格などを参考に仮想の売上や運営コストなども含めて収益性を試算し、水耕栽培の導入を検討する企業や個人に対して説明を行っている。

## 取組の成果

当農園の開園以来、合計で114組・464名の見学者の受け入れている。

また、合計で9品目、約696kgの野菜の収穫し、収穫した野菜は営業店窓口で来店顧客に配布し（同時点で延べ74店舗・5,877個）、水耕作物の安全性のPR等を行っている。更に、水耕栽培の品質向上と品種拡大のため、福島県立磐城農業高等学校と共同研究を行い、葉菜類に加え根菜類・果菜類を含む15品種を栽培している（いずれも平成27年9月末時点）。

現在、見学等を契機に事業化を検討する先も出てきており、食品製造業、社会福祉法人、建設業、飲食業者（イタリアンレストラン）等において、当農園の水耕栽培モデルを参考に水耕栽培プラントの導入、事業化の検討等が行われている。



写真1 収穫間近のフリルレタス



写真2 スタッフによる見学者への説明風景

## 今後の課題

現在LEDを活用した水耕栽培プラントの導入を検討している先があるが、設備投資費用、安定的な販路の確保、更には栽培原価からの収益シュミレーションを考慮した場合、他の栽培方法との競争力の問題等が課題となっている。特に原価圧縮は収益面に直結するため、事業化の是非のキーとなる要素であり、商品価値を考慮しても必要である。

原価圧縮については、育成期間の短縮、LEDの照射時間の短縮等の試験栽培を実施し、栽培データの取得に取組むと共に、福島工業高等専門学校との連携により、原価圧縮及び収穫量の増加に向けての研究栽培に取り組んでいる。



### Point | 支援実施のポイント／横展開にあたっての示唆

支援実施のポイント① スピーディーな方向性の決定

支援実施のポイント② 多様な顧客ニーズへの対応

支援実施のポイント③ 幅広い目利き能力の醸成